



スマトラトラ

Autumn
2025

H I G A S H I Y A M A

ひがしやま 74

名古屋市東山動植物園情報誌

ジャガーのユウキが 来園しました

今年6月に和の森わんぱくこうちアニマルランドからジャガーの「ユウキ(オス)」が来園しました。北園のアメリカゾーンで、ご覧いただくことができます。2年前に来園したマヤとの繁殖を目的に来園しました。ユウキは黄色いジャガーで、黒いジャガーのマヤとぜひ隣り合わせで比較して御覧いただきたいです。少し気が早いですが、マヤとの繁殖で生まれるこどもがどんな色になるのかにも思いをはせます。

ユウキの加入により新ジャガー舎ではじめての2頭の飼育展示となります。2頭の比較もあわせてジャガーの魅力^{みりょく}をさらに発掘^{はっくつ}いただければと思います。ぜひ会いに来てください。

(飼育第二グループ 佐橋)



Contents

- | | |
|--|--|
| 00 動物園トピックス
「ジャガーのユウキが来園しました」 | 07 東山動物園のレッドリスト動物Vol.27
「ムツアシガメ」 |
| 01 動物園長のエッセイ
「動物園の獣医療 ^{じゅういりよう} 」 | 10 植物園 秋の花だより
「秋のおすすめ植物」 |
| 02 飼育レポート
「3羽寄れば」 | 11 植物管理人だより
「ティランジア <i>Tillandsia</i> (エア・プランツ Air Plants) その6」
「秋を告げる花“フジバカマ”」 |
| 04 飼育だより | 12 植物園長のエッセイ
「つなぐ糊(のり)と植物」 |
| 06 動物病院日誌 Vol.73
「動物たちの最期の“後”」 | 13 植物園トピックス
「千種図書館合同企画 ^{きかく} 「おはなししょくぶつえん ^{かいさい} 」を開催しました」 |

表紙／スマトラトラ (*Panthera tigris sumatrae*)

6月に来園した兄妹のスマトラトラで、左にいるのがオスのアロナ、右にいるのがメスのマクムルです。まだ幼さが残りますが、今後の成長が楽しみです。2頭です。

現在は、同居によるトラブルを避けるため、分けて飼育しています。

(文／江口 撮影／佐伯)

東山動物園サポーター募集中!!

動物園サポーター制度は、動物たちが豊かで充実した生活を送ることができるように、飼育環境改善や動物福祉などを資金面からご支援いただくものです。

サポーターの区分と金額	個人	大人 3,000円以上 中学生以下 1,000円以上	サポーターの方に動物や東山動物園をもっと知っていただくために…	① 動植物園情報誌「ひがしやま」をお送りします。(4回) ② サポーターの方を対象にサポーター限定イベントを開催します。
	法人・団体	10,000円以上		

個人10,000円以上、法人・団体50,000円以上で支援いただいたサポーターは、氏名、法人・団体名を園内に掲示することができます。

申込方法

- | | |
|----------------------------|--|
| ① 動物園内で手続きをしていただく場合 | 動物会館図書室で申込書を記入の上、寄付金をお支払いください。 |
| ② 郵便振込で手続きをしていただく場合 | 振込用紙をお送りしますので、動物園サポーター事務局までご連絡ください。
サポーター事務局／公益財団法人東山公園協会 動物会館 TEL052-782-2111(内線340) |

野生動物を見て楽しむだけでなく、最近では動物福祉(アニマルウェルフェア)の視点でも動物たちをご覧になっている方が増えてきました。日本語で「福祉」というと、いわゆる「社会保障」を指す言葉としての意味合いが強く、「動物福祉」も同じように解釈されがちですが、「ウェルフェア」の指す「幸福」や「よりよく生きること」をうまく反映できるように、最近では「アニマルウェルフェア」が使われるようになっています。

動物園の動物の暮らしは、本来の生息地の環境とは異なり、気候そのものが違ったり、施設も自然ほど広くなく、生活も単調になりがちですが、限られた場所や空間であっても、できるだけ本来の生活ができるなど飼育環境を整える必要があります。それにあわせて、「よりよく生きること」のため健康で繁殖もできるように獣医療を充実させていくことが重要なことです。

少し前のことですが、東山動植物園では令和5年の春に動物病院が新しくなりました。平成28年に東山で発生した高病原性鳥インフルエンザの発生を機に、感染症の検査や治療する機能を強化したのですが、同時に、デジタルのレントゲンや内視鏡など最新のものに更新したほか、新たにCTスキャナーが導入されました。皆さんの中でCT診断の経験がある方もいらっしゃると思いますが、身体の断面を画像で詳しく検査できる医療装置です。このCTは、ゴリラやマレーバクでも検査できるよう、体重300kg程度の動物まで対応できる大型のものをを選び、画質も小さなものまで判別できる精度があります。先日も、ライオンのルナの右頬が腫れることがあり、このCTを使って検査しました。これまで、こういった症例にはレントゲン撮影で検査していましたが、それとは違い病変の大きさや形がくっきりははっきりとわかるようになり、診断の精度が格段に向上した印象があります。

ただ、診断の精度が上がったとしても、それは動物園診療のスタートに過ぎず、その後どのような治療を行っていくのが課題です。とくに野生動物の場合、犬や猫のペットとは違って臨床データも少なく、治療方法が確立していないことが多いです。そのような中で動物園の獣医師たちは、世界中の動物園など様々なところから文献情報を集めながら、ひとつひとつの症例に臨むこととなります。こういった積み重ねが、動物園で暮らす野生動物のアニマルウェルフェア、「健康」や「よりよく生きる」ことにつながっています。

(動物園長 茶谷)





3羽寄れば

1 はじめに

古代池には、ベニイロフラミンゴ、チリーフラミンゴ、カリガネ、シジュウカラガンの4種の鳥たちが暮らしています。どの種も、4月から7月の春から初夏にかけてが、繁殖期にあたります。(当園のシジュウカラガンはオスのみのため繁殖はありません。) 今年も、新たにカリガネのひなが誕生し、元気に成長してくれていますので、その経過を報告します。

2 当園のカリガネたち

当園では、ペアのカリガネとその子どもたち(2023年生まれと2024年生まれ)の計4羽が暮らしています。カリガネのペアは普段、いつも一緒に行動しています。私たちが古代池に入っても、少し距離を置いて穏やかに過ごしていることが多いのですが、4月ごろの繁殖期に入ると様子が変わります。近くを通ろうとすると「シャーッ」と声を上げて威嚇してくるようになります。この時期は、メスが安心して卵を産み、温めることができる場所を探しているためです。当園のカリガネのペアは、少し草丈の高い茂みや低木の影などに産卵することが多いようです。

3 産卵から抱卵

今年の5月12日、給餌のために古代池に入ると、いつも一緒に行動していたカリガネのペアが、オス1羽しか見当たりませんでした。2羽でよく歩いていたあたりを見てみると、メスが卵を抱いており、抱卵が始まっていました。カリガネは通常、3個から6個の卵を産み、抱卵期間は28日から30日ほど続きます。この間、オスとメスが交代で卵を守り続け、雨の日でもしっかりと抱卵を続けます。

しかし、ここからひなが孵化するまで油断はできません。古代池は鳥インフルエンザ対策でネットに覆われているため、カラスなどの鳥による外敵の心配はありません。ですが、ヘビなどはネット内に入ることができるため、卵が襲われる危険性があります。過去にもカリガネやフラミンゴの卵がなくなったり、幼鳥が襲われてしまったりしたことがありました。

そして6月3日、私たちが恐れていたことが起こりました。なんと、アオダイショウがカリガネの抱卵場所の近くに現れたのです。幸いそのヘビはまだ小型で、卵を飲み込むのが難しかったことと、飼育員が発見できたため、卵への被害はありませんでした。しかし、今後も狙われる可能性が高いと判断し、安全を考慮して卵を孵卵器に移して人工で孵化させることにしました。

4 誕生から成長

6月5日、4個の卵を孵卵器に入れました。そして5日後の6月10日夕方、卵にひびが入り、ひなの嘴(くちばし)が見え始める「嘴打ち(はしうち)」が始まっているのを確認しました。ここからは、ひなたちが自力で頑張る番です。



翌日の6月11日夕方まで、丸1日かけて3羽のひなが無事に孵化しました。残念ながら1個の卵は中止卵(途中で成長が止まった卵)で孵化しませんでした。

その後、ひなたちはめざましい速さで成長していきました。6月13日からは、柔らかくした小松菜や砕いてふやかしたペレットを自分たちで食べ始め、どんどん大きくなっていきました。鳥類の成長はとも早く、日ごとに体が大きくなっていく様子にはいつも驚かされます。



昨年も1羽のひなが自然孵化し、その後に人工で育てた経験があります。その時は1羽だけだったため、餌を食べること、初めて外に出ること、水に入ることなど、成長の段階ごとに私たち飼育員のサポートが必要でした。しかし、今回は3羽います。1羽が外に出たり水浴びを始めたりすると、他のひなもそれに続いて自分から行動してくれ、「兄弟の存在は大きいな」と感じました。兄弟がいることで、よりスムーズに様々な行動を学んでくれているようです。



ひなたちは現在、バックヤードで大切に育てられています。成鳥になるまでには、まだまだ様々な危険がありますが、無事に育ってくれるよう、引き続きしっかりとサポートしていきたいと思います。きっとこの飼育レポートを読んでいただいている頃には、3羽のカリガネたちが古代池に仲間入りし、元気に過ごす姿をご覧いただけるのではないかと思います。

飼育第一グループ3班 前田



再訪

昨秋、タロンガZOOを訪れる機会を得ました。目的はオスコアラ“スカイ”の輸送同行および飼育研修です。20年振りのタロンガZOOは大きく様変わりしており、新施設『Koala Country』では、高架園路の更に数メートル上方にコアラの姿がありました。大きなユーカリの樹上に身体を預け、風雨をものともしない姿に逞しさを感じ、また園外から眺めた月夜に浮かぶコアラの姿は実に幻想的でした。研修で

は、飼育員および獣医師から管理全般について改めて学んできました。また、最近日本においても注力している「アニマルウェルフェア」や反対に賛否両論ある「安楽死」についてのディスカッションを通じ、日本の遅れを再認識してきました。コアラの故郷であるオーストラリアの管理を、ここ日本においてそのまま踏襲することは容易ではありませんが、コロナ禍が終息して姉妹園としての連携が再開したこのタイミングを活かし、コアラの飼育管理を今より1歩でも2歩でも理想に近づけていければと考えています。



飼育第一グループ1班 伊東

インドサイの唇を触ったことありますか？

インドサイの唇を触ったことがありますか？わたしはニルギリさん、セラ兄さん、ブンタ君の唇を毎日さわっています。インドサイの唇は鼻と上唇がくっついたもので、ゾウのながーい鼻とおなじです。ゾウは草などを長い鼻で巻き付けてつかみませんが、インドサイは上唇を使ってそれはそれは器用に木の葉や草をつかみます。地面に落ちているピーナッツも拾うことができます。そんな自由自在に動く上唇は筋肉が発達しつつも、柔軟性も



兼ね備えて鍛え抜かれたアスリートの筋肉と同じ構造になっています(たぶん)。上唇を触るとやわらかくもありたくましさもある不思議な感覚です。そうそれはまるでインドサイののんびりとした小さいことには動じないおおらかさや必要となれば発揮される圧倒的な力強さを表しているように感じます。わ



たしは毎日彼らの上唇を触ることで彼らの状態を感じ取っているのです。決して触り心地が最高だぜ!とか軽い気持ちではないですよ。わたしはニルギリさん、セラ兄さん、ブンタ君の唇を毎日さわっています。

飼育第一グループ2班 鈴木

なぜ虫はユーカリハウスで大発生するのか？

虫はハウスの中に居たいのではなく、出られないのでは?と考え、ハウスを囲っている防虫ネットに着目しました。

害虫が侵入しないように付けられた“ネット”のせいで外に出たくても出られないとすれば、逆効果になっているとも考えられます。

虫とネットについて考えてみました。アブラムシについてはネットを通り抜けられると言われ、ネットの意味はないと考えます。

ヨトウムシの発生初期には幼虫は下草を好み、草がなくなるとユーカリを食べようになります。やがてハウスの中で成虫の蛾(ガ)になってもネットによって出られず、ハウスの中で繁殖しているようです。ハマキムシとシャクトリムシも同様に閉じ込められているようです。

ネットがなくて猫や鳥などが侵入しても困るので、防虫ネット(2mm目の網)をやめて、蛾は通り抜けられるような防獣ネット(20mm目の網)にしてみました。

でもやはり防虫対策で一番良いのは屋根もネットもなく風が吹き抜ける環境でしょうか!?



防獣ネットに張替えました

飼育第一グループ4班 平林

コンドルの換羽

みなさんがこの話を読む頃にはもう終わっていると思うのですが、コンドルは現在換羽の真っ最中です。(7月中旬)

換羽とは鳥の衣替えのことで古い羽根が抜け落ちて、新しい羽根に生え変わることです。古い羽根には傷がついていることもあり、飛ぶのに支障が出る場合があります。

種によって時期や期間も違いますが、コンドルは年に1回数ヶ月かけて少しずつ生え変わっていきます。

今年の換羽は5月下旬頃から始まったのですが9月頃まではかかると思います。

換羽中は新しい羽根を作るのにエネルギーを使うため、体調不良になりやすいのですが、当園のコンドルは少し食欲が落ちるくらいで元気に暮らしています。ぜひ新しい羽根に生え変わったコンドルを見に来てください。



飼育第二グループ1班 山本

動と静

自然動物館の夜行性エリアにいる2頭のオスのケープジェネット。見分けるポイントは耳にあります。一方は両耳がピンと立ち、もう一方は左耳が少し折れています。性格もかなり違います。

折れ耳(写真右側)はおっとりしていて、顔つきもまるい雲間気が(主観ですが…)あるのに対して、立ち耳(写真左側)はやや警戒心があり、とにかくよく動きます。つい、お、落ち着け…!と言いたくなるほど。そ



のせいか、体型も少しばかりシュッとしているような?餌を食べるスピードも違い、折れ耳はよくササミ肉や馬肉を強奪されるのに、怒るわけでもなくのんびりしています。



もう少し反抗すればいいのに、と思いつつ、そっと一切れ多く用意しています。

飼育第二グループ2班 箭野

ハクトウワシ(サン)来園

5月21日にハクトウワシのメスのサン22才が来園しました。サンは2003年に釧路動物園で生まれ、アドベンチャーワールドでバードショーに出ていました。人から餌をもらう事に馴れているので、室内に入っても怯えて暴れたりすることはありませんでしたが、まだ私との信頼関係が出来ていない状態だったので、徐々に関係を築き慣れ始めてきました。同居をさせる為にサンの隔離室の前にオスのピィの餌

台を設置してお見合いをしている段階で、人馴れしていないピィも作業をしていると手が触れるほど近くに来るようになりました。思いの外、2羽の相性は良いのかもしれませんが、広い場所で飛ぶための羽ばたく筋力をつけてから、サンを展示ゲージに出して二羽を同居させます。ペアが成立して秋には巣作りをする姿が見られると思いますが、猛禽は目が良く警戒心が強いのので観察者を嫌がる傾向に



あります。巣作りを始める様になったら、見て見ないフリをしてくださいね。

飼育第二グループ3班 外部

動物たちの最期の“後”

東山動植物園では、様々な動物を飼育しています。ライオンやトラのような肉食動物、ゾウやキリンのような草食動物、あるいはヒョウモントカゲモドキのような小さな爬虫類など、400種を超える動物を飼育しています。

動物を飼育していくうえで、動物の死は避けられません。東山動植物園では、死亡してしまった動物は解剖検査を行い、死因の究明を行います。

なぜ死んでしまったのかを明らかにして飼育や診療の反省を得る以外にも、採血をするための血管の場所や開腹手術をする際に気を付けなければいけない内臓の位置など、次の診療のための学びを得ることができます。

死んでしまった動物は解剖検査をするだけでなく、骨格標本や毛皮のような標本にして、環境教育に利用しています。

骨格標本を作るときは、

- ①骨についている肉や皮を取り除く。
- ②低温調理器で煮込んで、取り切れなかった肉を柔らかくする。
- ③①と②を肉がなくなるまで続ける。
- ④薬剤に漬けて脱脂・漂白する。
- ⑤日陰で乾かして完成。

という方法で作っています。



インドガビアルの頭骨

骨格標本は、動物の特徴がわかりやすい頭骨の標本を残すことが多いです。

骨格標本以外にも、飼育員が毛皮などの標本を作製しています。



スマトラトラの毛皮

こうして時間をかけて作った標本は、動物園の飼育作業体験などのイベントで使用するほか、動物園ガイドボランティアによる解説などに利用しています。イベントで標本を見かけた際は、見て、触って動物たちに興味をもってもらえるととても嬉しいです。

生きている姿を見せてくれた後も、今後の飼育管理や教育活動に貢献してもらっています。

(指導衛生グループ 堤坂)

【動物取扱業登録】

名称:名古屋市、事業所の名称:名古屋市東山総合公園、事業所の所在地:名古屋市千種区東山元町3-70、動物取扱業の種別:展示、登録番号:第0701027号、登録年月日:2007年6月1日、登録の有効期間の末日:2027年5月31日、動物取扱責任者:茶谷公一

レッドリストとは、IUCN(国際自然保護連合)が1986年から刊行している世界で絶滅の恐れがある野生生物種のリストです。2024年においては11,400種が「絶滅の恐れのある動物種(脊椎動物)」として掲載されています。また各国の政府機関や地方自治体等で独自に作成しているリストもレッドリストと呼ばれます。

ムツアシガメ

分類：爬虫綱 カメ目 リクガメ科 ムツアシガメ属

学名：Manouria emys 英名：Asian Giant Tortoise

分布：マレー半島、スマトラ島、ボルネオ島など

絶滅危惧種：CR(IUCNレッドリスト2018評価)ワシントン条約付属書Ⅱ(1975年)



体重測定中



CR
2019 IUCN
レッドリスト

絶滅種(EX/EXTINCT)	絶滅が確認された
野生絶滅種(EW/EXTINCT IN THE WILD)	野生では絶滅した
絶滅危惧IA類種(CR/CRITICALLY ENDANGERED)	絶滅寸前の状態にある
絶滅危惧IB類種(EN/ENDANGERED)	近い将来絶滅する恐れが高い
絶滅危惧II類種(VU/VULNERABLE)	絶滅の恐れが高い

ム ツアシガメは、甲長が60cm、体重が37kgにもなるアジア最大のリクガメです。現在飼育しているオス個体は、1989年に来園し東山動植物園で35年以上飼育されています。体重は19.23kg(2025年7月7日現在)ありました。

後足の付け根のウロコが大きなケヅメ状になり、そのケヅメが5本目6本目の足に見えたことが「六つ足亀」の名前の由来となっています。

熱 帯雨林に生息していて、一般的にイメージされるやや乾燥した場所に生息するリクガメと異なり、多湿の環境を好みます。当園の個体も水に浸かるのが大好きで、いつも水に浸かっている部分には藻が生えています。

主に植物を食べますが、小型無脊椎動物や両生類なども食べる雑食性です。東山動植物園では、葉野菜、ニンジン、カボチャとリクガメ専用のペレットを主食として与えています。その他には、ミネラル・ビタミン補給のための粉末と馬肉・鶏肉・レバーのミンチも動物性タンパク質の補給のためほんの少し与えています。

メスは巣となる卵を産むための塚を作り、産卵後、その場に留まり巣を守ります。巣を守る行動はカメではとても珍しい習性になります。

生息地の消失、食用としての利用、世界的なペット取引のための利用により、個体数が減少しています。

(動物園 白木)

動物たちをそっとささえる

東山動植物園

Higashiyama ZOO & BOTANICAL GARDENS

応援定期預金



名古屋銀行では、「いのちつなぐパートナー」として毎年、動物たちのえさ代等にお役立ていただく寄付を実施しています

抽選で
あたる!!
PRESENT



名古屋銀行
オリジナルツアー

10グループ(1グループ最大5名さま)



東山動植物園
オリジナルグッズ

50名さま



●8月15日と2月15日を基準日として、東山動植物園応援定期預金に10万円以上の残高があるお客さまを対象に抽選を実施しています。※窓口でのみお申し込みいただけます(東京支店、大阪支店、インターネット支店、ATM、ローンセンター、各プラザを除く)※賞品は選べません※A賞・B賞の内容は、予告なく変更・中止する場合があります

名古屋銀行は
東山動植物園を
応援しています



名古屋銀行



名古屋銀行は持続可能な開発目標(SDGs)を支援しています。



コアラ

KOALA

栄養価の低いユーカリが主食。

一日の約20時間を寝て過ごす。

2本の足で立ち上がって
パンザイしているのは
威嚇をしているとき。



RED
PANDA



ニシゴリラ
WESTERN
GORILLA

じつはおとなしく、
性格は慎重派。

SUMATRAN
ORANGUTAN



スマトラオランウータン

木の上で暮らす動物の中で
一番大きく、両手を広げると
2mを超えることも。



スマトラ
SUMATRAN
TIGER

ネコ科としては珍しく水を嫌わず
泳ぐこともあり、木に登ることもある。

読者の声 ~72号アンケートより~

ケイマンイワイグアナが
レッドリスト動物ということ
初めて知りました。
密輸入は絶対許されません。



杖のお話しを読んで、
亡父の事を思い出しました。
父は木の杖を使っていました。
どの木だったのかな・・・と

動物ガイドツアーに参加しました。
解説員の方がわかりやすく
説明してくれて楽しかったです。

コアラを見に孫と行きます。
遊園地もあり、お財布に優しい
料金で感謝しております。



手入れが行き届いて
いて清潔感があり
気持ちよく過ごせます。

飼育レポート
すばらしかったです。
心より有難うございます。

シャバーニ大好き、
コモドオオカゲ大好き、
ホッキョクグマ大好き、
東山動植物園大好きです。



桜を毎年見に行っています。
早咲きから遅咲きがあるので、長いシーズン
たのしめる東山植物園気に入ってます。



毎日くる度に展示が
工夫されていていつも
楽しく子どもとみています。

植物園もいつも歩くのですが、
ボランティアの案内があり
とても勉強になりました。

ひがしやま 73 号のクイズの答え

Q 野生のコモドオオカゲは、
現在何頭ぐらい生息しているのでしょうか?



- ① 1500頭
- ② 3500頭
- ③ 7000頭

A 正解は
②
3500頭
でした。

東山動植物園 ＊北園＊

大観覧車

名古屋の街を
みわたそう



遊園地

ジェットコースター

風を切って
走る!



●営業時間10:00～16:50 (のりもの券の発売は16:40まで) 営業時間を変更する場合があります。

★アトラクション	利用料金	★アトラクション	利用料金	★アトラクション	利用料金	★アトラクション	利用料金
☆ミラーハウス	120円	☆モノレール列車	240円	☆大観覧車	360円	☆くるくるキリン	240円
☆ふしぎたんけんの館	240円	☆フラワーストーム	360円	☆ハニービー	240円	☆スロープシューター	360円
☆メリーゴーランド	240円	☆くまさんコースター	240円	☆ビックリハウス	240円	☆フライングイーグル	360円
☆ティーカップ	240円	☆コアラ列車	240円	☆ニューバイキング	360円	☆ジェットコースター	360円
						☆レッドバロン	360円

*1Dayパスポート・お得なチケット及びアトラクションの利用制限等、詳しくはホームページをご覧くださいURL:<http://www.higasiyama.jp/>

Café North Garden

カフェ ノース ガーデン



shop North Garden

ショップ ノース ガーデン



●動物ソフト3種類



●コアラカレー



●オリジナルコモドオオカゲグッズ



●ジオラマランチチョコ

秋のおすすめ植物

暦の上では秋がきているはずなのに、まだ、暑さが残っていたら、とおきの秋を感じられる場所「^{しっちえん}湿地園」を訪れてみてはいかがでしょうか。東山の天然の湧水で育まれた^{わきみず}湿地園でしたら、きっと涼しい秋を感じられることと思います。

●シラタマホシクサ *Eriocaulon nudicuspe* Maxim. ホシクサ科

秋の湿地園では、金平糖を散りばめたような可愛いシラタマホシクサの花が、一面に咲く姿が広がっています。花茎の先端に咲く花は、1つのように見えますが、1～1.5mmほどの小さな花がたくさん集まった集合体です。花茎はゆるくねじれ、花を支えるための強度を保っています。

シラタマホシクサは^{きゅうりょう}東海丘陵要素植物と呼ばれる東海地方の湿地に分布する特有の植物です。



●スイラン *Hololeion krameri* (Franch. et Sav.) Kitam. キク科



名前にランと付きますが、この花はランの仲間ではなくキクの仲間です。漢字で「水蘭」をあて、細長い葉をランの葉に見立て、水の多いところに生えているのでスイランと名がついたのでは、と言われています。花びらをよく見ると、先が平らでギザギザしている姿が、かわいらしいです。植物を観察して推しの部分を見つける楽しみ方もすてきだと思います。

●リンドウ *Gentiana scabra* Bunge var *buergeri* (Mig.) Maxim.ex Franch. et Sav. リンドウ科

湿地園の脇にある階段を上っていくと、円形の踊り場があります。その山側の草むらの中に、毎年秋になると美しい紫色のリンドウが咲きます。ここで出会うリンドウは、お花屋さんで売られている真っすぐに伸びた切り花用のリンドウとは全く違う姿です。楚々としたたたずまいの中に、のびのびと自然体で野に咲くリンドウに、しなやかな強さや逞しさと、深まりゆく秋を実感します。



●サワシロギク *Aster rugulosus* Maxim. キク科



ピンと伸びた花径の先に白い花を咲かせます。路傍に咲く薄紫色のノコンギクと同じシオン属ですが、比べると花びらが少しまばらにつくせいか、素朴な印象を与えます。花の咲き始めは真っ白ですが、時間が経つと赤みを帯びてきます。秋も深まり、草紅葉の中に凛と咲く赤みを帯びたこの花を見ると、冬に備える気持ち^{くさもみじ}が芽生えてきます。



植物管理人だより

ティランジア Tillandsia (エア・プランツ Air Plants) その6

今回は、飾り方について簡単に紹介します。ティランジアは土やミズゴケなどが無くてもスタンド(写真①)などに置いたり、ぶら下げ(写真②)たりして飾ることができます。流木、コルク(写真③)、インテリアバーク(写真④)、ヘゴ板※1などに小さい穴を開け根元や葉元に針金やテグスなどで固定し着生させたり、観葉植物(写真⑤)に引っ掛け着生させたりする事も出来ます。また、鉢(写真⑥)やコルクポットや可愛い入れ物などにミズゴケやヤシ殻を砕いたベラボンなどで植え込むこともできます。これらを参考に様々な場所や物でティランジアを育てて見てはいかがでしょうか。



▲スタンド(写真①)



▲ぶら下げ(写真②)



▲コルク(写真③)



▲インテリアバーク(写真④)



▲観葉植物(写真⑤)



▲鉢(写真⑥)

※1 ヘゴ板はワシントン条約により輸入量が激減したためヘゴ板の代用品もあります。

指導園芸班 水谷

秋を告げる花 “フジバカマ”

秋の七草といえ、皆さんいくつ思い浮かびますか。

ハギ、ススキ(尾花)、クズ、ナデシコ、オミナエシ、フジバカマ、キキョウ(朝顔)とありますが、これらは万葉集に収められている山上憶良が読んだ二つの歌から由来しています。「秋の野に 咲きたる花を 指折り かき数ふれば 七種の花」(万葉集より)「萩の花 尾花 葛花 などしこの花 をみなえし また藤袴 朝顔の花」(万葉集より)

今回はその中の一つフジバカマについてお話します。

<秋の七草のひとつ「フジバカマ」>

フジバカマは、キク科ヒヨドリバナ属の

多年草で、冬は枯れた状態で過ごし、春に芽が出て、秋に花が咲きます。花は全体的に淡い紫色、白く糸状に見える雌しべが特徴です。

漢字では「藤袴」と書きますが、これは花の色が藤(フジ)に似て、花びらの形が袴(はかま)に似ていることが由来といわれています。

<フジバカマを求めて渡るアサギマダラ>

東山植物園には、毎年秋になるとフジバカマを求めてアサギマダラという蝶がやってきます。浅葱(あざぎ)色の美しい蝶で、ふわふわと優雅に飛ぶ姿が印象的です。旅する蝶としても有名で、台湾や東南アジアなどから海を越えて2000km以上もの長距離を渡ってくる個体もいるそうです。

毎年訪れてくれるアサギマダラの期待に応えようと、植物園の東海の森どんぐり広場に、フジバカマを植えつけています。



どんぐり広場のフジバカマ



植物園にきたアサギマダラ

今年も来てくれることを願って、どんぐり広場へアサギマダラを探しに来てください。

緑地造園班 佐藤

つなぐ糊(のり)と植物

糊のりは接着剤せっちゃくざいとしての役目だけでなく、物と物をゆるくくっつける「つなぎ」の役目もあります。また、衣類をパリッと仕上げる役目もあります。今回は糊についてお話しします。

最も普及ふきゅうしているのはでんぷん糊で、主に紙同士を接着する際に用いられる水溶性すいよう接着剤こくもつの一つです。穀物こくもつや芋類いもるいなどから取れるでんぷんから成り、市販品はコーンスターチしはんひん(トウモロコシでんぷん)やタピオカ(キャッサバの根茎から作られるでんぷん)を主原料とする場合が多いですが、米や小麦からも作られます。米はいわゆるご飯粒つぶをつぶして糊にするのが筆者には最も身近な体験として残っています。生麩しょうふ(しょうふ)糊というものは、小麦を加熱し練ってタンパク質のグルテンを「生麩(なまふ)」という形で取り出した残りを糊として使います。コンニャク糊たいすいせいは耐水性があって外装和紙の接着に使われたようです。他にもわらび糊、シラン糊といった、植物由来のでんぷん糊があったようです。

普段ふだん使いの糊でないものを紹介しょうかいすると、小麦でんぷん糊を3～10年寝かせ低温発酵ねさせた糊は、掛け軸かけなどの表装をする際に使われ、仕上がりりが柔らかく修理するときに紙を傷めずに剥がせるそうです。でんぷん糊に生漆しゅせき(きうるし)を練り込んだ漆糊(うるしのり)という接着剤は、主に布や木の接合に使われました。生漆に小麦粉を混ぜたものは、破損した陶磁器とうじきの接着剤として使われることもあるようです。

また、アラビアゴムノキに代表されるアカシアから取れる水溶性の樹脂じゆしは、「アラビアガム」という汎用性の高い原料として重宝され、その一部は液体糊として使われました。

つなぎ役の糊を紹介すると、ツノマタ、エゾツノマタといった海藻かいそうは壁土かべつちのつなぎ材料として使われ、ハナフノリ、フクロフノリ、マフノリなどの海藻を乾燥させた「乾燥フノリ」は、新潟魚沼地方の名物である食べ物「へぎそば」のつなぎに用いられているほか、漆喰しゅくのつなぎ材料としても使われてきました。また、トロロアオイ(根)、ノリウツギ、アオギリ(茎や樹皮)から採れる粘液ねんえきは製紙のつなぎ材料として使われました。

フノリ類を煮出した液体は、織物の仕上げとして糊付けにも使われました。家庭でも昔は小麦や残ったご飯から作ったものを洗濯糊せんたくとして使いましたが、カビや虫がつきやすく、保存に向かないことから次第に合成糊へと変わっていきました。

いつも思うことですが、先人たちの知恵ちえと工夫には、ただ感服するばかりですね。



(植物園長 下総)

千種図書館合同企画 「おはなししょくぶつえん」を開催しました

令和7年5月、千種図書館さんと合同で「おはなししょくぶつえん」を開催しました。毎年初夏と秋に実施しているイベントで、主に小学生以下のお子さんを対象にしています。今回のテーマは「びっくり!食虫植物のおはなし」ということで、千種図書館さんからは食虫植物が出てくる絵本や図鑑を、植物園からは本物の食虫植物を紹介し、最後は皆さんに食虫植物の塗り絵を楽しんでいただきました。



食虫植物に関する図鑑はあるものの、絵本は限られていて、事前の打ち合わせでどの本を紹介するか、子どもたちにどうやって紹介するかをよく話し合いました。

実際に紹介した絵本は「ねござかな」というシリーズの1つで、一見食虫植物が関係しないように思いますが、食虫植物によって大変なことになるかもしれないお話です。

植物園からはウツボカズラ・モウセンゴケ・ハエトリソウ・サラセニアの4種類の食虫植物を紹介しました。それぞれの植物がどのように虫を捕まえているのか、実際の植物を見ながら子どもたちに考えてもらいました。ハエトリソウの虫の捕まえ方は皆さんの知るところでしたが、指でつついて実演し、葉がどのようにして閉じるかをじっくり観察してもらいました。



ウツボカズラ



モウセンゴケ



ハエトリソウ



サラセニア

塗り絵も好評で、皆さん夢中になって楽しんでいました。実物が側にあるためそれをよく観察して色塗りをしていました。塗り絵は全部で6種類準備しましたが、中には全種類の塗り絵を持ち帰ってくれた子もいました。

今回のイベントを通して、食虫植物の面白さについてたくさん知ってもらえたのではないのでしょうか。



裏表紙/オウシュウナラ *Quercus robur* L. 日英両国の友好関係を深め、環境・自然保護等のテーマで交流を一層進めていこうと、英国大使館から平成14年に高さ約1mのオウシュウナラの苗木が贈られ、植物会館の前に植樹されました。今では大きく成長し、毎年秋に形の良いかわいい実をつけてくれます。(文/野村)



オウシュウナラ

H I G A S H I Y A M A

Autumn
2025

ひがしやま 74

名古屋市東山動植物園情報誌



東山動植物園
Higashiyama
ZOO & BOTANICAL
GARDENS

